

# 港北区災害ボランティア連絡会ニュース

事務局 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸 13-1 吉田ビル 206 港北区社会福祉協議会

TEL 045-547-2324 FAX045-531-9561

HP <http://kohoku-saibora.jimdo.com> FB 港北区災害ボランティア連絡会

77号

2019年6月



\* 入会は随時受け付けています。あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください

## みなさんの参加・発言・行動を 「つながりはそなえ」を作り出すため

### 初めての研修会付き総会、好評

豪雨災害、2度の地震と大きな災害に見舞われた昨年でした。幸いなことに横浜ではまだ大災害は起きていませんが、それが油断となつては大変です。当会としても、減災行動を促進するための啓発活動と、発災時のボランティアセンター運営能力向上のための方針を決定しました。

- 賢い被災者となる知恵や体験を共有しよう
  - 死なない、傷つかない防災を目指そう
  - 「つながりは備え」を実現しよう
  - 多様な関わり方を考えよう
- の4本を活動方針としました。

しかしいつ来るか分からないため、ついつい災害対策は先延ばしされがちです。対策を進めるためには仕掛けとつながりが必要です。港北区民として様々なつながりを持っている会員は、そのつながりを生かし防災を語っていきましょう。お茶の間防災を広めましょう。

そのためには相手に伝える中身が大切です。今年度は昨年以上に学習会を重視します。東京防災、東京暮らし防災、HUG(避難所運営ゲーム)、DIG(災害図上訓練)、クロスロード等を使って学んでいきます。

またサークルスクエアへの移行により、アンケートなど簡単に取ることができるようになりました。定例会には参加できない事情の方でも、意見を伝えることができるよう、活動内容などア

ンケートを使って意見を積極的に取り入れて行きたいと思います。皆さん、面倒くさいと思わず、ちょっと画面を除いて下さい。

総会では今回初めて研修会を行い、HUGを取り上げました。講師は減災ラボを主催する鈴木光さん、師岡在住です。今回で港北区内での活動は2回目とか。専門家って意外に地元には接点を持たないものですが、今後は色々とお付き合いいただこうと思います。



参加型講習会は質問にきちんと  
答えなければなりません



「いやー難しかった」とは、参加した拠点関係者の感想。様々な避難者が次々と押し寄せることを想定し、どんどん課題を解決(不十分でも)していかないと避難所は混乱していきます。実際は最低でも3時間は取りたいところを1時間で収めてもらったため、振り返りが充分取れないのが残念でしたが、今後の定例会で深めていきたいと思えます。

今回は広く呼びかけたため、拠点関係者や南区の災ボラメンバーも来ていただきました。これらも今後のつながりに続くものと期待します。(宇田川)

## 区内諸団体の総会で



### 防災を訴える

春は総会の時期ですが、港北区ボランティア連絡会(ボラ連)と、当会会員でもあるWE21の総会に出席しました。

ボラ連では、日常は防災とは関係のない活動も、災害時にはそのつながりを生かせることを強調し、日頃からのお付き合いをお願いしました。

WE21では「大災害・・・個人、地域ができること」とのお題をいただき、個人の備えとその備えを地域に広めるための口コミの効用をお話ししました。ここでは会員の方が総会中にポリ袋調理を進めており、総会終了後皆さんでいただきました。ポリ袋調理ははじめての方も多く「おいしい」「簡単ね」と驚いていました。お土産が調理用ポリ袋と言うのも嬉しいものでした。

両方の総会とも被災地物販も快くやらせて頂き、多くの方に購入して頂きました。ありがとうございます。(宇田川)



注：ポリ袋調理は専用の袋が必要です。ネットで簡単に買う事ができます。

## 港北区本部訓練報告

区役所内でも本部立ち上げ訓練を行っています。今回その中から災害ボランティア活動関係で見た課題について、ボランティア班担当の濱畠さんに寄稿して頂きました。

今年の1、2月に港北区役所で実施した「港北区本部訓練」について報告をいたします。訓練では震災発災後において各班が「随時発生した課題にどう対応するのか」等について検証する訓練です。今回は私たちボランティア班が検証した課題について一部ですが共有いたします。

- ①ボランティアの宿泊所をどう確保したほうが良いか？  
→太尾防災拠点センターを想定しているが、被災者の避難場所確保を優先するべきであり、現状では被災状況が落ち着いていないため区側で宿泊所を確保は行わない。
- ②ボラセンのサテライトを設置したい。  
→ボラセンから遠い日吉エリア、新横浜エリアなどで適切な場所を選定する必要がある(訓練では慶應義塾大学を選定)。  
→これまでサテライトという発想はなかったため、今後検討が必要。
- ③医療従事者ボランティアを派遣してほしい。  
→ボラセンで派遣できるのは「一般ボランティア」。専門ボランティアについては局へつなげる。

以上のように、実際にシミュレーションしてみると、即時判断する訓練となったり、新しい課題への気づきがありました。こうした経験を次

に生かしていくということが重要であると感じました。

今年もボランティア連絡会でシミュレーションが予定されています。より実践的な訓練を実施して課題を整理し、被災時に円滑にボランティアセンターを運営していくことができるよう日々改善をしていく機会とできたと思っております。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

区ボランティア班 濱島亮平さん

## いらっしゃい！！よろしく

はじめまして！  
区役所総務課 福本さん



本年度より港北区総務課で防災担当をしております福元成美(ふくもとなるみ)と申します。皆様に少しでも私自身について知っていただくために、大学時代学んだことについてお話ししたいと思っております。大学では、外国人が日本で暮らすなかで問題となっていることや、孤独死の問題、障害を持った方々が暮らしやすいまちづくり等々、社会で今問題となっていることについて幅広く学びました。ここでは詳しくお話しできませんが、日本で暮らす外国人に関する諸問題は想像以上に深刻で、特に印象に残っています。横浜市職員としてこうした社会問題の解決に少しでも貢献できるよう、今後の幅広い分野での経験を大切にしていきたいです。

短いご挨拶となりましたが、災害ボランティア連絡会の皆様とのお仕事を通じ、防災担当として少しでも成長できるよう頑張ってお参りますので今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

よろしくお申し度  
区社協 田中元子さん



4月1日より港北区社会福祉協議会に配属

になりました田中元子と申します。どうぞよろしくお願い致します。前職は神奈川県民活動支援センターの職員をしており、市民活動団体や生涯学習グループの支援、地域デビュー講座の企画運営等の仕事をしておりました。

災害と聞いて思い出す事は東日本大震災です。地震発生時、私は2歳と5歳の子どもを抱え自宅で余震におびえながらテレビを見ることしかできず過ごしていました。夫は仕事先から帰宅することができず不安の中にいたときに近所の方が声をかけてくださりとても心強かった事を昨日の事のように記憶しています。以前、防災講座を受けた時に子どもと一緒に近所のつながりを作っておくことが大切だと聞いていたので日頃から挨拶をしたり、町内会の防災訓練に参加したりしていたおかげだと実感しました。災害ボランティア連絡会のみなさまの活動を通して多くの方に自助、共助の大切さが伝わるよう微力ながら努力して参りますのでどうぞよろしくお願い致します。

## 担当は外れてもおつきあいは続く

災ボラ担当が毎年新人という事は難しさもある半面、社協活動の根底の一つに災害支援が有るという事を知ってもらえるメリットも有ります。昨年までの担当だった遠田さんの感想です。

## 災ボラを担当して

今年度から担当業務が代わり、連絡会の担当から離れることとなりました。そのため、会議で皆さまとお顔を合わせる機会が少なくなり、寂しく思っています。2年間、大変お世話になりました。

さて、連絡会の皆さんと活動を共にして勉強させていただいたことは、「備え」への意識の





高さです。災害時の自助や共助、公助といったことはどれも大切です。しかし、それらを支えるのは事前の「備え」です。それについて連絡会の定例会では、参考書籍の読み合わせなどを通し、会員の皆さんで熱心に確認されていました。この連絡会ニュースでも「〇〇さんちの防災」とコラムが掲載されていますが、それぞれ工夫を凝らした、自身の状況に合った「備え」をされていると感銘を受けました。通勤時などに被災した場合に備えて水筒を持ち歩いているというお話があり、大変参考になりました。私は重くないようにとクリアボトルを購入し、できるだけ持ち歩くようになりました。

前述のお話は一例ですが、連絡会の定例会では日ごろの課題意識を会員の皆さんで共有したり、自分が持ち寄れる知識を提供したりと、有意義な時間となっております。担当からは離れましたが、このような連絡会により多くの方に参加していただけるよう、活動の周知などで協力させていただきます。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

港北区社協 遠田哲也

## どろっぷサテライト3周年記念地域イベント”いのちを守れる知恵を学ぼう

### 「防災まちカフェ」報告

どろっぷサテライトがある綱島東地区で(社)スマートサイバープロジェクトのかもんまゆさんを4月13日にお呼びして、大震災を経験した乳幼児ママのリアルな体験談をもとに、災害対策はとにかく減災につけることの意味と意義を語っていただきました。

#### 発生後15分をとにかく必ず生き延びること

震度7になると心理的状況下で人間の行動がどうなってしまうか？自然災害の仕組みなどを非常にわかりやすい映像と図解で解説してくれました。人類が生息するために普段地

球からたくさんの恩恵を享受しているのだから、その地球が地殻変動した地震は災害などと怖がらないで欲しい。自然の摂理であり、かつてから人類は体験していることである。だからこそ学び、準備をし、「減災」にしておく必要があるのだ、と説いています。

社会学、心理学、数的根拠、日常生活に即した場面が散りばめられとても解りやすい説得力のある内容でした。



今度は実際被災した多くの親からの声を学びに変えてまとめた「その時ママがすることは？」(1冊200円)も、「防災ママパパカフェ」として多くの乳幼児家庭に実現させ普及していきたいと思いました。

認定NPO法人びーのびーの運営

港北区地域子育て支援拠点どろっぷ

施設長 原 美紀編集後記

#### 編集後記

☆サークルスクエアの使い勝手はどうでしょうか。使いこなして、多くの意見をお寄せください。(宇田川)

☆色々な情報を知ること、減災・自助ということだと思います。(付岡)

☆身近に酸素吸入をしている人がいるのですが、災害時、特に停電は不安です。(室伏)

☆災害の備えには、保険・共済が不可欠です。次号から少しずつ、豆知識を掲載する予定です。(中島)

